

「高齢大腿骨近位部骨折患者における心不全合併の有無で、
回復期病棟入退院時のADLに差があるかの検討」
研究へのご協力をお願い

このたび、当院回復期病棟へ大腿骨近位部骨折で入院された患者様の、合併症、血液データ、認知機能評価、日常生活動作評価を用いて、心不全合併者の入退院時の日常生活動作に差があるかの研究を行います。

大腿骨近位部骨折の75%以上が75歳以上で発生しているとされており高齢者で多い疾患です。また、高齢化により心不全の患者数は年々増加しています。その為、高齢者では心不全と大腿骨近位部骨折の重複障害を抱える方が増えております。心不全患者は運動耐容能低下による病前活動量の低下や蛋白異化により筋肉量・筋力低下が生じやすいといわれております。

そこで、大腿骨近位部骨折と心不全合併の有無で、回復期病棟入退院時の日常生活動作(ADL)に差が生じているかを明らかにする為の研究を計画しましたので、ご協力の程どうぞよろしくお願いいたします。

患者様への負担は一切ございません。また、患者様のプライバシーは漏洩しないように留意いたします。

本研究への協力を望まれない患者様は、その旨を下記連絡先までお伝え願いたいと存じます。連絡がない事をもって、研究参加にご同意いただいたこととさせていただきます。

1. 対象となる方

2023年2月から2024年2月までの1年間で、大腿骨近位部骨折で当院回復期病棟へ入院された患者様。

2. 研究課題名

高齢大腿骨近位部骨折患者における心不全合併の有無で、回復期病棟入退院時のADLに差があるかの検討

3. 研究実施機関

医療法人 社団明芳会 イムス佐原リハビリテーション病院

4. 協力をお願いする内容

診療録(カルテデータ)から疾患名,現状歴,合併症,既往歴,年齢,性別,身長,体重,病前ADL,病前介護度,血液データ,MMSE-J,FIMを調査いたします。

5. 研究実施期間

承認日から2024年6月30日までにデータ解析をいたします。

6. プライバシーの保護について

個人情報の保護に関する法律に則り、個人情報の取り扱いには十分に配慮いたします。研究対象者の性別、疾患名等の個人情報はすべて匿名化し、研究対象者を特定できる用法を含まないようにします。

7. お問い合わせ

この研究について、何かお聞きになりたいこと、心配な事がありましたら、いつでもご遠慮なく研究責任者にお尋ねください。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報保護や当該研究の独創性の確保に支障がない範囲内で、研究計画及び研究方法に関する資料を閲覧する事ができます。

【研究責任者】

研究参加にご同意をいただけない患者様及び、関係者皆さまから相談等への対応窓口は以下の通りです。

〒287-0001 千葉県香取市佐原口2121番地1 イムス佐原リハビリテーション病院
研究責任者：井川 智士（リハビリテーション科 理学療法士）
連絡先：0478-55-1113（イムス佐原リハビリテーション病院）